

一般質問 まちづくりを問う

12月定例議会では、19人の議員が登壇し、質問を行いました。
質問と答弁の内容を要約して、お知らせします。

汚染廃棄物の処理は国・東電で

市長／市町村に押し付けようとするもの



あべ さだみつ 議員 阿部 貞光

性が確認された事から、堆肥化による減容化を進めていく。

議員 県から混焼での処理方針(案)が示されたが問題点は、国・東電は責任を取ったと考えているか。

市長 焼却による環境への影響、健康不安、風評被害への不安や焼却の場合の混焼率、焼却灰の処理方法などが懸念される。国・東京電力が責任を持って処理を行うべきものを従前どおり市町村に押し付けようとする

議員 牧草・稲わらを含む汚染廃棄物の処理について市長の見解は。

市長 保管場所周辺の住民の不安を1日も早く解消するため、汚染牧草の堆肥化による減容化実証実験を行ってきた。混合堆肥を使った植物育成実証実験で安全



金成で行われた減容化の説明会

るもので、責任を取ったものとは考えていない。

議員 児童虐待や育児放棄は大きな社会問題で、毎年11月を児童虐待防止推進月間と位置付け活動が行われている。市の現状と対策・活動は。また、社会的入院状況はどうなっているか。

市長 虐待などで支援を行っている児童のいる世帯は83世帯で、年々減少している状況。保健師及び家庭相談員が家庭の状況に合わせ家庭訪問や電話での面談を行い、内容に応じて関係機関と連携を図りながらきめ細やかな支援を行っている。児童虐待防止の市民講座の開催や広報くりにへの掲載及び医療機関へポスター掲示など啓もう活動を実施し、小・中学校、保育所、幼稚園の担当者に職員研修会を継続して実施している。社会的入院は、市内での対象者はいません。

栗原の教育と民間活力の活用

市長／地域との連携・見守りの環境づくりに努める



議員 勝義 相馬

議員 何らかの理由で学校へ行けない子ども達の居場所づくりを民間の活力と共に考えてみては。また、道徳教育の転換を図るとされているが、市としてはどのような教育になるのか。

でも達の居場所づくりに、地域、民間の協力などを得ながら向上に努める。次に、指導要領の一部改正により、自ら考え議論するという質的転換が求められる。議員の倫理観などを参考に、地域の豊富な経験を持つ方々との話し合いを深め、指導の方法を考えたい。

議員 築館高校野球部グラウンドの新設について県との交渉の状況は。

市長 現在のグラウンドが



築館高校の野球場

校舎から遠い位置にあり、要望書をいただいている経緯もあり、担当者と今後協議を進めていく。それに伴う、道路事業を早期にという件に関しては、高校周辺の宮野地区は、市の核となる重要な場所であり、中核ゾーンとして位置づけた中で、整備と考えているので、移設計画と合わせて考えていきたい。

スマー ト インター 設置

議員 志波姫パーキングとスマートインターの接続の重要性を、先の定例会でも市長よりきいているが、現時点の進捗状況と見通しは。

市長 県では、インターチェンジ設置による相互乗り入れを検討している旨をきいた。東北自動車道と県北高速道路体系のさらなる向上に向けて、県に強く働きかけたい。

第2次総合計画策定の施策をどう考えるのか

市長／平成29年度に計画策定



議員 義雄 高橋



事業実施が待たれる栗原中央線の東側先線

議員 第2次総合計画策定に当たり、少子高齢化対策

ならびに若者定住対策など今後10年間の重要施策をどのように考えているのか。

市長 現在、基本計画と実施計画を策定中である。子育て世代の負担軽減を図るための支援策の充実、高齢者支援策は、社会参加や生きがいづくり活動への支援とともに、地域包括支援システムを構築し、住み慣れた地域で生涯にわたり元気で充実した生活を送ること

ができるように支援する。若者定住策については、遠距離通勤や多世代同居する若者への支援や、移住希望者それぞれの事情に配慮した支援制度の充実を図る。

議員 (仮称) 栗原東大橋整備事業の早期完成と新山十文字線および栗原中央線の進捗状況はどのようになっているか、今後の年度毎の実施計画も含めてきく。

市長 (仮称) 栗原東大橋橋梁整備事業は、現在橋梁および取り付け道路の詳細設計を実施しており、平成30年度までに用地買収および物件補償、平成31年度から橋梁および道路改良工事を予定しており、財源を確保し、早期完成に努める。

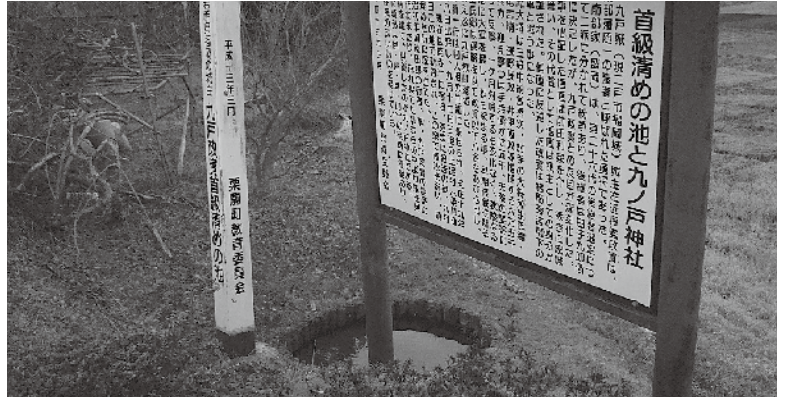
新山十文字線は、用地買収が完了見込みであり平成31年度の完成を目指す。

栗原中央線の国道4号築館バイパスとの東側先線は今年度から事業実施に向けた検討を進めていく。今後の計画は、平成29年度から関係機関協議、用地調査測量設計、用地買収を行い平成33年度工事着手予定としている。



のりお 佐藤 議員

急げ 文化財の標柱・説明板の更新 市長／一覧表と更新計画を策定し対応



指定保存が望まれる首級清めの池と九ノ戸神社（栗駒地区）

議員 市内には、歴史的に城下町を形成した城跡や館跡が現存し、数多く有形や無形の文化財が分布する。合併時に旧町村から引き継いだ指定文化財の件数は、**市長** 現在、市の指定文化財は、国指定11件、県指定18件、市指定は220件の合計で249件である。**議員** 合併時に未指定である文化財の件数と、今後の対応方針はいかに。**市長** 未指定文化財について

て明確な引き継ぎは無く、総数は把握していない。**教育部長** 未指定文化財の一覧は、旧栗駒町と旧一迫町だけが作成していた。他の地区の実態も把握し、整備の対応を検討したい。**議員** 合併時に引き継いだ文化財の指定状況に、問題はないか。現在の未指定文化財全体について、専門的知見から再調査を実施し、バランスを確保すべきだ。**市長** 旧町村指定文化財は、現状のまま引き継ぎ、全て市指定文化財とした。未指定文化財は、今後、町史からの洗い出しや文化財保護審議会の協力で調査する。今後の指定は、県の指定基準で行なうことから、統一性のある判断となる。**議員** 現地を踏査すると、標柱や説明板の劣化が著しく、記述内容の誤りも散見する。栗駒山麓ジオパークで、観光客は増加傾向にある。早い段階で、計画的に一斉更新すべきだ。**市長** 指定文化財や埋蔵文化財包蔵地の調査は、来年度で終了する。今後の更新や修繕は、一覧表と更新計画を策定し、実施する。



栗原中央病院に移管される循環器・呼吸器病センター



さとう 悟 議員

県は医師確保・財政負担に責任を

市長／建設・医療の運営費は県が負担する

議員 ①市立中央病院は、初診の際、他医師の紹介状が求められる。基準はどうか。縮小・廃止すべきである。

②県立循環器・呼吸器センターは、市立中央病院へ移管となる。県は、医師確保・財政負担に責任を持つべきである。

病院管理者 ①急性期医療の役割を担い、入院患者への専門的な医療を可能としている。整形外科・眼科は、患者数が多く緊急を除

き提出を求めている。紹介状がない場合は特別料金1080円の負担となる。医療機能の維持のため必要である。

市長 ②結核病棟の建設・整備費用、駐車場補償、結核・感染症医療の運営費は県が負担する。移行後の必要な職員数は、意向確認し調整する。また、結核病棟の職員確保は、県が行う。

議員 スポーツ施設の整備・充実を求める。
①野球場のバックネット改良（金成）、ナイター新設（金成・若柳）。
②小田ダムパークゴルフ場のクラブハウス増設・暖冷房設置・駐車場の拡張。
市長 ①年次計画策定の中で検討する。ナイター施設は考えていない。
②スペース確保が困難で難しい。暖房はストーブで、冷房は必要に応じて検討する。西側市有地を臨時駐車場に対応する。

水利組合への支援は

市長／中山間の維持・住環境の改善の面で可能



菅原 久男 議員

議員 水利組合は、任意の小規模土地改良区から引き続き任意の水利管理組合を設立し、水利の管理運営を行っている。設立後半世紀以上も経過している組合もある。管理組合の現状は、



変貌する水利組合の管理水田環境

議員 小規模、小区画であることから受委託も円滑に行われ難く、さらに受益者の高齢化や後継者不足さらには休耕に伴う水田の荒廃地化また、宅地への地目変更などにより組織の維持管理運営には困難を極めているところが多い。市の支援策は。

市長 市内には、水利組合および類似する組織は95団体あり、追川上流土地改良区では、用排水路の受益者

で組織する水利組合には運営費を補助し、地域の協力を得ながら農業用施設の維持管理を行っている。今後も同様に進めたいと聞いている。

議員 市では、水利組合から揚水機場の管理移管についての要望は受けていない。

議員 土地改良法、改良区の定款上から市長の回答は理解できる。しかし水利組合では、用排水路の維持・管理運営において混住社会や荒廃水田の拡大などの現状を鑑みたと、賦課金の徴収などに関して同組合に対する支援の方策がないか

市長 土地改良は、当然のことながら自己完結、自己責任がある。賦課金の徴収を市が担うことは考えられない。そういう中であって中山間の維持、栗原の景観栗原の水など、どのように管理するかなど合わせながら市で対応できる可能性があるのかなと思っている。

閉校後の教育施設の対応は

市長／地域と協議し利活用を検討



高橋 渉 議員



急がれる閉校施設の利活用

議員 平成20年度より始まった市立学校再編計画は平成31年度に終了する予定となっている。この間、閉校後、2・3年経過しているにもかかわらず、その後の利活用が決まっていけない。

る。売却や公募については期限を定めていない。現在のところ、製造関係の事業者などからの問い合わせの経緯があるが、売却には至っていない。引き続き努力したい。

議員 地域で活用することも考慮すべきでは。

市長 閉校施設を有する地区の区長会議において検討をお願いしている。閉校後3年間としていた利用検討期間を2年延長して対処したい。引き続き地域と協議を進めたい。

議員 閉校施設の備品、および財産については。

市長 再編した学校での利用を最優先とし、公共施設や地域自治会などでの利活用を考えている。

議員 閉校した各学校の実態を整理し、売却や公募に努めている。市有財産の処分については、市公有財産検討委員会に諮って決定す

議員 閉校した学校には多くの卒業生が築いた歴史があり、また、記念の物品が残っている。その品々を1カ所に残す施設を造るべきではと提案する。

市長 保管状況を確認し地域の方々と協議し、展示の方法について検討したい。

**閉校の歴史と
思い出を展示**



いしかわ しょうぶん
石川 正運 議員

再編計画からはずし、宮野小学校はそのままに 市長／再編の理解を得られるよう努力



再編の合意を得られない宮野小学校

議員 市内の学校再編計画の推進の中で反対を表明したのは宮野地区だけであり地域の意志を尊重すべきではないか。同意がなければ進めないという原則がある。今後説明会を重ねても厳しい状況下であり、築館地区学校再編計画は築館、玉沢、富野の3校で新しい築館小学校とし、宮野小学校はそのまま定着させるべきと思うがどうか。

市長 再編計画は平成31年度の実現を目指して計画を

推進している。今後も丁寧に説明をして理解を得られるよう努めていく。

議員 築館工業団地開発は雇用の安定と働く場の確保のため、長年の夢であり念願でもあった築館工業団地整備こそが、地域の活性化の起爆剤になり、若者定住少子化対策の一助につながるのではないかと、そのためにも早期に県と土地所有者の開発公社との協議を行い実現を目指すべきと思うがどうか。

市長 築館工業団地は産業集積および安定雇用を図る上で極めて重要な拠点である。工業用地整備に向け県および土地開発公社に積極的に働きかけていく。

議員 栗原中央病院に現在あるリハビリ広場が瀬峰病院移管に伴い無くなることが決まった。患者や医療スタッフからも要望が多いが新たに設置すべきと思うがどうか。

病院管理者 リハビリだけでなく他の患者の癒しの効果などもある。屋外のリハビリ施設の必要性を改めて検討していく。

急げ交通弱者への支援

市長／平成29年度に空白域の解消計画を策定



みつつか みつひさ
三塚 東 議員

停留所まで遠いなどの理由で、思うように買い物や病院に行けない人がいる。「生活の足」となる移動手段を早く進めるべきではないか。

議員 市の高齢化率は、平成32年度には39・4%と見込まれている。

運転免許を自主的に返納した高齢者の中には、市民バスを利用したくてもバス路線がなかったり、バスの

市長 広く市民の声を聞きながら、交通弱者への対応や交通空白地域を解消するとともに、持続可能な公共交通の体系をつくることを目指し、現在運行している路線バス、予約運行型の路

線バス、デマンド交通や新たな自家用有償の旅客運送サービスなどを総合的に検証し、高齢者が安心して暮らせる地域社会をつくるよう平成29年度に「栗原市地域交通再編実施計画」を策定する。

議員 交通弱者への対応や交通の空白地域を解消するため平成29年度に計画を策定しているが、市内には既に144人が運転免許を返納しており、高齢者は待ったなしである。

社会福祉協議会が独自に実施している「福祉送迎サービス過疎地域モデル事業」などの支援が緊急の重要課題ではないか。

市長 地域交通体系は、コミュニティの運営など、いろいろな方法があると思う。市がすべて行うことばかりではなく、みんな考え地域と一緒に事業運営する社会も望ましいのではないだろうか。



高齢者に欠かせない「市民バス」

ダムに大量の土砂

市長／早期の対策を県に要望



市長 千昭 議員 佐藤

ダム機能には特に支障がない」と判断されている。

議員 本年は集中豪雨や逆に好天続きの水不足もなかったが、このままではい

議員 ずれダム機能が低下する。

市長 当然灌漑排水や水害などの被害を防ぐ役割がある。早期対策を講ずる事を

県に強力に要望していく。

議員 小学校の下から国道の樹木伐採を

花山小学校の下から



土砂で埋まったダム上流

いつぶく公園までは、樹木が道路を覆い、冬季は雪が解けずに凍結し、交通事故も多い。伐採などの対策を

市長 冬期間は重点的な区間と位置づけ除雪・融雪を

実施している。伐採も現地調査の上、実施していく。

議員 ミズバシヨウ公園の徹底した管理を

3月下旬から4月上旬に清楚な花が咲き誇るミズバシヨウは早春の観光スポットである。昨今は花株

が少なくなり花も少ない。原因究明と管理の徹底を。

市長 圃場の維持管理に務めて来た。専門家のアドバ

イスを受けながら公園の充実に努めていく。

議員 その他の質問

ダム敷きの立木伐採を旧座主橋の塗装を

青少年旅行村の整備を深山公園の全体活用を

を

を

を

「サポートカード」を導入しては 市長／慎重に調査、検討していく



市長 善浩 議員 三浦



「サポートカード」(周知・案内のチラシ事例)

議員 発達障がいのある人が、日常生活のさまざまなシーンで、周囲に自分の特性を伝えて、適切な配慮を

求める「サポートカード」を希望者に配布する事業を導入してはどうか。

市長 誰もがこの特性を正しく理解し、気づく土壌が醸成されるよう、支援を進めながら、慎重に調査、検討していく。

議員 産婦人科の充実を

①栗原中央病院の産婦人科の現状は。②課題と今後の取り組みは。

議員 病院管理者

①毎週月曜日から木曜日までの午後、非常勤医師による婦人科疾患の診療、子宮がん検診および週一回の妊婦健診外来を行っている。②産婦人科医

師不足など環境は非常に厳しい状況。大崎市民病院などの連携強化を図りながら、体制づくりに務める。

議員 金成の課題から考

議員 高齢者の交通移動手段のニーズと計画は。

市長 金成地区では、特に高齢者の市民バスのニーズは高いと分析している。実施中のバス利用者実態調査市民アンケート調査の結果に基づきニーズを分析し、栗原市地域公共交通網形成計画に反映していく。

議員 「その後」を問う

議員 「セカンドブック」の導入は。

市長 平成29年度から実施を計画している。

汚染稲わらの混焼処理には反対

市長／焼却の対象自体ナンセンス



たかはし かつお 議員
高橋 勝男



混焼処理対象の汚染稲わら（築館有機センター）

議員 県が進める混焼処分の中に市内で保管している汚染稲わらも含まれている。混焼の対象物から除くべき。
市長 今回の処理方針案では、未指定の汚染稲わらの内、再測定の結果8000ベクレルを下回ったものを処理対象にしているが、指定、未指定関係なく指定廃棄物同様の扱いにすべきである。
議員 市長の考えと県の提案には大きな違いがある。なぜ反論をしなかったのか。
市長 未指定、指定関係な

く、保管をした当時の数字で対応すべきと言ってきたので、次回の会議では必ず発言する。
議員 混焼に対する態度は。
市長 市民説明会での意見や学者の考え、更なる意見を聴き、態度を決める。
議員 堆肥化の実証実験に対する評価と課題、本格処理についての考えは。
市長 松井名誉教授から、安全で確実な処理方法であると評価を頂いた。製造堆肥の利活用も含め、本格処理に向け検討する。
議員 製造された汚染堆肥の利活用は。
市長 特定の場所あるいは地域で処理されるものと考えている。
議員 堆肥の処理は、市長の考える地域の方々の理解と協力がなければ進まない問題である。理解をもらう事が先決では。
市長 市民への説明は計画作成と同時に進めていく。
議員 隔離して保管するという事も必要ではないか。
市長 隔離保管は、最終処分場同様どこに保管・管理するかについて住民の理解を得ることが難しい。

歴史の香るまちづくり「点から線」へ

市長／計画中の誘客施設を拠点に活用検討



い が ら し い さ み 議員
五十嵐 勇



8代・9代石母田親子城主の墓碑

議員 岩ヶ崎の鶴丸城は室町時代後半1440年代に大型山城として築城され、21人の城主に受け継がれ栄えた城下町で豊富な歴史遺産をもっている。①鶴丸城跡②数多い寺院③軽部六右衛門公園と軽辺水路④桜馬場跡の馬場通りおよび城下町時代からの地名通りなど多く、それらを組み合わせた散策コースの設置と看板設置の充実、拠点となる案内所と歴史の感じる建造物を設置し、屋根の無い「まちじゅう博物館」で活性化を図るべきと思うが。
市長 伝統の祭りや芸能、寺院や歴史のある通り情報をマップで紹介している。

また、現在進めている旧庁舎跡地の商店街など誘客施設を拠点としての活用、城下町に調和したデザインを検討していきたい。
議員 歴史遺産と栗駒山、ジオパークと関連施設を組み合わせた周遊コースを設定充実するべきと思うが。
市長 栗原山麓ジオパークのビジターセンター（旧栗小跡地）と商店街など誘客施設の連携により、それぞれが有する魅力と特徴を活かした形成について検討していく。
行政 区 制 見直しの進捗は
議員 市の行政改革計画にある行政区の見直しを現在自治活動が活発になっていく中でどのように進めていくのか。
市長 地域との話し合いの中で統合、再編の機運が高まり次第、地域の主体性を基本に協議をしていく。

瀬峰地区民の要望の実現を

市長／精査し総合計画に位置づけ



さきこういち 議員
佐々木幸一

米市と同じ100円に改正すべきと思うがどうか。

市長 病院の移管に伴い、利用者が不便を来たさぬよう登米市より良いサービスを考えていきたい。

議員 循環器・呼吸器病センターの栗原中央病院への移管に伴う地区民の多くの要望を市長はどう思うか。

市長 宮城県が実施すべき事業は県へ強く要望する。
議員 市民バスの運賃を登



平成31年度移管する瀬峰の県立病院

学校再編後の課題

議員 再編された学校の切磋琢磨の効果は。

市長 学級内で学びあう学習効果が上がっている。

議員 再編後の学校駐車場は狭く保護者は困っている。駐車場不足解消策は。

市長 授業参観などには、校庭の開放や周辺の公共施設の利用で対応している。

議員 玉沢小学校が再編される築館小学校の駐車場は再編前と同じで狭い。市役所南側の駐車場予定地の工事は、どうなっているか。

市長 一軒家屋移転手続きを進め、平成29年度中には工事を始める予定である。

議員 再編後の瀬峰中学校の駐車場不足を市も真剣に取り組むべきではないか。

市長 しっかり対応したい。

議員 再編後の学校でいじめや不登校は減っているか。
市長 再編後の小学校・中学校とも変化はない。

新電力を利用し電気料金削減せよ

市長／新設は今後の検討課題



せとけんじろう 議員
瀬戸健治郎



電力自由化を知らせるパンフレット

議員 東日本大震災で原子力発電所が停止し大手電力会社が値上げする中、新電力は5%から10%安く電力を供給しシエアを伸ばし、財政難に苦しむ自治体や大手企業も続々と新電力に切り替えている。

① 近隣自治体の導入状況はどうか。

② 栗原市の主要施設に導入した場合、削減効果の試算はどうなるか。

③ 栗原市ではなぜ導入しないのか。

市長 ①宮城県では美術館など4カ所、登米市は公共施設70カ所、一関市は25カ所導入している。

②アスパル若柳や栗駒体育館、文化会館、市役所庁舎などに導入した場合、年間390万円 3.2%の削減効果が見込まれる。

③栗原市は東北電力と「電力設備災害復旧に関する協定」を結んでおり2度の地震災害でお世話になったので新電力導入の考えはない。

議員 今は電力を作る会社と送電する会社に分かれています。また、大災害時にあつては国を挙げての復旧にあたるのが当たり前で栗原市だけが応援して頂いたわけではない。政策に生かすべきだ。

市長 過去にトラブルがあった先例自治体があるがしっかりと視野に入れて対応していく。

その他の質問
高齢者ドライバーの安全対策と免許返納後の交通手段の確保に万全を

太陽光発電 市の対応はいかに

市長／土砂流出被害が生じないように指導する



おの きゅういち
小野 久一 議員



削られる山肌、心配される土砂流出

議員 太陽光発電の普及は著しいものがある。自然再生エネルギーとして大いに結構なことだが、反面パネルの設置状況を見ると丘陵地や林地の開発により山肌が削られ土砂災害が心配されるが、市長はどう認識しているか。

市長 県に「林地開発許可申請」があった場合、市の意見が求められ、市は関係部署において現地確認などを実施し、意見や要望を県

に提出している。現実には大雨で土砂が国道まで流れた被害が発生し、すべて事業者負担で治させた事例もある。県と連携し保水能力の低下や土砂流出被害が生じないように指導していく。

議員 農地中間管理機構もお手上げ状況の荒廃農地や減反田の農振地域指定を見直し、農家の副収入としての太陽光発電を勧めたらどうか。

市長 今後総合計画などに即し農業団体、農家などからの意向調査や農地利用の基礎調査を実施し農振計画の見直しを検討する。

保育所待機児童対策は万全か

議員 現在の待機児童数は何人か。平成29年4月には解消されるか。

市長 0歳が35人、1歳が5人、2歳が4人の44人である。現在641人の申し込みがあり全員入所に向けて調整をしている。

議員 求職中は入所できないか。

市長 求職活動中であっても入所は可能だが、多数の時は就労者が優先される。

生涯学習振興車の充実を

市長／通常の利用に支障がないよう検討



さとう ふみお
佐藤 文男 議員



カーテンがない生涯学習振興車

議員 生涯学習振興車は、子ども会から高齢者まで、市民の様々な生涯学習行事に活用されているが、車によつては装備に大きな違いがある。保有台数と年間延べ利用回数はいくらか。

市長 生涯学習振興車は8台で年間運行回数は242回となっている。

議員 カーテン、マイク、カーナビなど装備されていない車や、一部だけしか装備されていない車など、ばらつきがあるが、日常の利用に不便がないように整備すべきだ。

市長 8台のうちカーテンマイク、カーナビが装備されている車が1台、一部だけ

けが6台、全てないのが1台だ。今後、通常の利用に支障がないよう、装備品の必要性も含めて検討する。

姫松地区歩道用地の管理と今後の計画は

議員 姫松大沢地区の県営圃場整備事業で、東西7キロにわたり歩道整備用地として市道脇に用地が確保されている。このうち旧姫松小学校東側の一部が歩道として整備されただけで残は、10数年間放置されたままだ。地区では、未整備の所をボランティアで管理している。今後の整備計画と当面管理しやすいように旧水路などの構造物を撤去し、用地をなだらかにすべきだ。

市長 学校再編により旧姫松小学校が閉校になるなど地域の情勢が変化し、現時点で事業休止としている。未整備の区間は現地を確認のうえ作業に支障のないよう実施について検討する。

栗原市の課題について

市長／第2次栗原市総合計画で解決



議員 佐々木嘉郎

議員 地方創生の取り組みでは、各自治体の主体性・独自性のある施策が求められている。誇りに思うまちづくりをどう進めるか。

市長 「自助・共助・公助」に近隣住民の見守り助け合



会議中の「瀬峰地区地域づくり検討会」

いの「近助」を加え、教育や人材の育成を進める。
議員 施設などのハード面だけでなく、ソフト面により重きを置いた施策を期待するが。

市長 都市などからの移住・定住を促進しながら、生涯学習の推進や文化・芸術に触れる機会の提供などを考えている。

議員 10年後の人口を5万9100人としている。斬

新たな施策を望むが。

市長 子どもを安心して産み育てられるよう不安を解消し、結婚・妊娠・出産の希望を実現できる支援の充実を図る。ふるさとに誇りを持ち、高い志と思いやりのある子どもを育てる教育の推進を図る。

議員 「瀬峰地区地域づくり検討会」から出されている駅周辺の宅地造成、駅から公民館までの県道拡幅と歩道整備、高清水中学校と瀬峰中学校の統合前に県道1号線の緑石や街路灯の整備などの安全確保、県立循環器・呼吸器病センター跡地利用は、介護施設や研究機関なども検討すべきと提案された。どう考えているか。

市長 提言書が出されたら内容を尊重する。県が実施すべきものは県に要望する。市への提言は策定中の第2次栗原市総合計画に位置づけ、課題を解決していく。

放射能汚染廃棄物の混焼堆肥化をやめ、安全な管理を

市長／総合的に判断



議員 菅原 勇喜



しっかりと仮保管されている汚染土壌

議員 混焼や堆肥化をやめて、放射性物質は決して拡散させず、住民の被ばくを防ぎ、管理して減衰を待つことが基本である。花山地区においては、除染で出た土壌を地域住民の了解のもとに仮置場を設置し、仮保管している。地域住民の合意を得てしっかりと管理して、決して混焼することのないよう、堆肥化についても直ちにやめるよう求める

がどうか。

市長 県は汚染廃棄物の処理を進めるため、試験焼却を提案したものであり、あわせて焼却以外に堆肥化やすき込みにより、市町村が独自に処理することも可能としているが、市民の理解を得ることは当然必要であり、住民説明会や汚染牧草減容化実証実験等結果報告会のご意見などを聞いた上で総合的に判断していく。

幼稚園授業料現行3500円に戻せ

議員 平成27年9月定例会において幼稚園授業料徴収条例の改正が行われ、月額3500円が5900円から1万1700円へと引き上げられた。平成30年度からの実施とされているが現行の3500円へと引き下げを求めるがどうか。

市長 任期中は従来額。子育て施策の充実を掲げていることから、当分の間は改正前、後を比較し下がる場合は改正後の額、上がる場合は従来額とする。私の任期中にこの経過措置を改正する考えはない。

栗原が好きだから

私は、23歳で栗駒に戻り、それから約20年農業と餅加工の仕事を父と一緒に、現在は父の後継者として就労しています。若い時は休日のない父母の背中を見て「農業は絶対しない」という気持ちでいましたが、いざやってみると苦労も多いですが、仕事の楽しさを感じるようになってきました。しかしながら、高齢化社会に伴い栗原市でも離農者が多く、さらに担い手不足に遭遇しているのが現状です。このままでは農業従事者の田畑の面積が膨らみ、農地を管理しきれなくなる時代が目の前に迫ってきているように思います。

栗原市は、若年層の人口減少が著しく、若い農業従事者はごくわずかです。米どころを掲げている栗原市として、農業に対する充実した政策が喫緊の課題ではないでしょうか。故郷栗原市が、米どころの名を広めていけるような在り方を共に考えたいと思っています。



栗原 吉尾 寛さん
(栗 駒)

私もひとこと

地域が寂れないように望む



高橋キク子さん
(高清水)

旧岩出山町真山から嫁いで50年、その頃の高清水は、互市や夏祭り、年末年始の大売り出しと商店街は活気に溢れていましたが、その後、各家庭に車が増え、それに伴い路線バスは廃止され不便になりました。

近年は、閉店する店が多く、昨年地域の人たちの拠所だったこれまでであったスーパーが移転したのは残念で、地域の人たちは小さなスーパーでも来てくれるのを願っています。

また、病院の医療費よりも交通費が高く、高齢者に大きな負担となっておりますが、1日数便の福祉バスはありがたいです。

私は、議員報酬を引き下げるべきと思っただのに期末手当が上がるのには納得がいきません。議員の皆さんには、これからも市民のために地域が寂れないように頑張ってくださいようお願いいたします。

あとがき

今年には雪の全くない穏やかな正月を迎えましたが、日本海側では大雪に、また例年は積雪などほとんどない西日本は、大雪で交通機関が大混乱しました。これも異常気象の一つでしょうか。

アメリカではトランプ新政権が始動し、これまでの流れがどのように変わるのか、日本にもどのような影響が出てくるのか懸念され他国の大統領ながら、今後の動向が気になります。

12月議会は、県が示した汚染牧草の処理問題が大きな争点になりました。

市民が納得できる安全な処理が求められます。

佐藤 文男

広報編集調査特別委員会

- | | |
|------|-----------|
| 委員長 | 三 塚 東 |
| 副委員長 | 三 浦 善 浩 |
| 委員 | 佐々木 幸 一 |
| 委員 | 高 橋 涉 |
| 委員 | 五十嵐 嘉 郎 |
| 委員 | 佐々木 嘉 一郎 |
| 委員 | 小 岩 孝 一 |
| 委員 | 佐 藤 文 男 |
| 委員 | 佐 藤 文 男 |
| 議長 | 長 濁 沼 一 孝 |